



Sun Fire™ X2100 M2 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 819-7534-10
2006年9月、改訂 A

本書に関するコメントは、次の宛先までお送りください。 <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインタフェースは、Sun Microsystems, Inc. がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。Sun 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインタフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。Sun 社は、Xerox グラフィカルユーザーインタフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する Sun 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は Sun 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利—商用。政府関連のユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, États-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. possède les droits de propriété intellectuels relatifs à la technologie décrite dans ce document. En particulier, et sans limitation, ces droits de propriété intellectuels peuvent inclure un ou plusieurs des brevets américains listés sur le site <http://www.sun.com/patents>, un ou les plusieurs brevets supplémentaires ainsi que les demandes de brevet en attente aux États-Unis et dans d'autres pays.

Ce document et le produit auquel il se rapporte sont protégés par un copyright et distribués sous licences, celles-ci en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Tout logiciel tiers, sa technologie relative aux polices de caractères, comprise, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

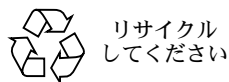
Des parties de ce produit peuvent dériver des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux États-Unis et dans d'autres pays, licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface utilisateur graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox dans la recherche et le développement du concept des interfaces utilisateur visuelles ou graphiques pour l'industrie informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface utilisateur graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciés de Sun implémentant les interfaces utilisateur graphiques OPEN LOOK et se conforment en outre aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DÉCLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES DANS LA LIMITE DE LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE À LA QUALITÉ MARCHANDE, À L'APTITUDE À UNE UTILISATION PARTICULIÈRE OU À L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



Sun Fire X2100 M2 サーバー ご使用にあたって

本書では、Sun Fire X2100 M2 サーバーの最新情報と問題を説明します。

本書で説明する問題は次のとおりです。

- 2 ページの「ハードウェアと BIOS」
- 3 ページの「システム管理の一般的な問題」
- 8 ページの「システム管理の WebGUI またはリモートコンソールの問題」
- 11 ページの「システム管理のブラウザに関する問題」
- 13 ページの「診断の問題」
- 14 ページの「Solaris の問題」
- 16 ページの「Linux の問題」

ハードウェアと BIOS

次の問題は、Sun Fire X2100 M2 サーバーハードウェアや BIOS に適用されます。

これらのリリースノートで説明されている BIOS のバージョンは、2a10 です。ベータプログラムで、これらの問題の一部を修正した更新バージョンが使用可能になっている場合があります。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 2 ページの「BIOS のデフォルトのリセット後に RAID を再び有効にする」
- 2 ページの「Emulex HBA のエラー」
- 2 ページの「前面 USB ポートのケーブルの制限」
- 2 ページの「シングルビット ECC エラーが存在すると POST でシステムがハングする」

BIOS のデフォルトのリセット後に RAID を再び有効にする

ファームウェアのアップデート後に BIOS のデフォルトを設定すると、RAID はデフォルトで無効になります。RAID を使用している場合は、デフォルトの設定後に BIOS で RAID を有効にします。

Emulex HBA のエラー

Emulex 製のホストバスアダプタ (HBA) を使用していると、SEL ログにバスの修正不可能なエラーが表示されます。

テストでは、Emulex HBA の機能上の問題は見つかりませんでした。

前面 USB ポートのケーブルの制限

前面 USB ポートでは、デバイスへの接続に 3 メートルのケーブルしか対応していません。

シングルビット ECC エラーが存在すると POST でシステムがハングする

システムの POST にシングルビット ECC エラーが存在すると、システムがブートせず、何も出力が表示されなくなります。

この問題は今後の BIOS の改訂で修正される予定です。

システム管理の一般的な問題

次の問題は、Sun Fire X2100 M2 サーバーの Embedded Lights Out Manager サービスプロセッサ (Embedded LOM SP) に適用されます。Embedded LOM の詳細については、オンラインの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

これらのリリースノートで説明されている SP のバージョンは、0.98 です。ベータプログラムで、これらの問題の一部を修正した更新バージョンが使用可能になっている場合があります。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 3 ページの「セキュリティの危険性：リモートコンソールが自動的に閉じない」
- 4 ページの「シリアルコンソールの Sun のスプラッシュ画面が表示されない」
- 4 ページの「仮想 CD-ROM をアンマウントした後、ネットワークブートがブート順の最上位に移動する」
- 4 ページの「仮想デバイスに関する問題」
- 5 ページの「Embedded LOM サービスプロセッサに対する Serial Over LAN の設定」
- 8 ページの「ストリーミングビデオと KVMs Over IP」
- 8 ページの「SP の CLI コマンドによるシステムの時刻」

セキュリティの危険性：リモートコンソールが自動的に閉じない

次の状況ではリモートコンソールが自動的に閉じないため、リモートコンソールのウィンドウを必ず閉じてください。

- WebGUI がタイムアウトになったとき
- WebGUI からログアウトするとき

この問題は現在調査中です。

シリアルコンソールの Sun のスプラッシュ画面が表示されない

システム出力を見るためにコンソールを起動すると、スプラッシュ画面が表示されないため、F2 キーを押して BIOS に入るように要求するメッセージが表示されません。

対処方法: シリアルポート経由の接続時にコンソールを使用しない場合は、BIOS でスプラッシュ画面を無効化します。

スプラッシュ画面を無効化するには、次の手順に従います。

1. F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを開きます。
2. 「Boot (ブート)」 → 「Boot Setting Configuration (ブート設定構成)」を選択します。
3. ブート設定を `quiet boot - disable` に設定します。

これにより、F2 キーを押せというメッセージが表示されるようになります。

仮想 CD-ROM をアンマウントした後、ネットワークブートがブート順の最上位に移動する

仮想 CD-ROM をアンマウントした後、ネットワークが CD-ROM (ある場合) に代わってブート順の最上位に移動します。

対処方法: BIOS セットアップユーティリティに入ってブート順を変更します。

この問題は現在調査中です。

仮想デバイスに関する問題

次の問題は、Embedded LOM のリモートコンソールシステムに接続されている仮想デバイスに関連しています。Embedded LOM の詳細については、オンラインの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

- 仮想 CD-ROM が SLES 9 SP3 にマウントされていないように見える

SLES 9 SP3 システム上でリモートコンソールを起動すると、CD のマウント時にポップアップダイアログボックスが表示されないため、仮想 CD-ROM がマウントされていないように見えます。

対処方法: `/media` ディレクトリから仮想 CD-ROM にアクセスします。

- 一部の仮想 USB フラッシュデバイスが Solaris にマウントされない
一部の USB フラッシュデバイスでは、Embedded LOM に仮想デバイスがマウントされたように見えても、実際はマウントされません。
この問題は現在調査中です。
- Solaris で仮想ストレージデバイスが読み込めない
Solaris システム上で、Mozilla または Firefox ブラウザで WebGUI を使用していると、場合によって仮想ストレージデバイスが読み込めないことがあります。この問題は現在調査中です。
対処方法：ブラウザを再起動します。
- Solaris 上の Mozilla や Firefox でアンマウントを行なうと、仮想デバイスがマウントされないことがある
場合によって、Solaris システム上の Mozilla や Firefox ブラウザで仮想デバイスをアンマウントした後に、再マウントされないことがあります。この問題は現在調査中です。
対処方法：リモートコンソールが動作しているシステムをリブートします。
- Solaris 上の WebGUI 内に複数のデバイスをマウントできない
Solaris オペレーティングシステム上で Mozilla または Firefox を起動している場合、マウント可能なデバイスは常に 1 台のみです。
この問題は現在調査中です。

Embedded LOM サービスプロセッサに対する Serial Over LAN の設定

Serial Over LAN を使用して Embedded LOM SP を操作するには、各オペレーティングシステムに対応するセクションを参照してください。

- [5 ページの「Solaris の場合の手順」](#)
- [7 ページの「Linux の場合の手順」](#)

Solaris の場合の手順

1. root (スーパーユーザー) として Solaris システムにログインします。
2. 次のコマンドを実行して、ttyb の転送速度を 115200 に設定します。

```
# pmadm -a -p zsmom -s ttyb -i root -fu -v 1 -m "\ttyadm -l \  
115200 -d /dev/term/b -T vt100 -S n -m ldterm,ttcompat -s \  
/usr/bin/login"
```

3. 次のように /boot/solaris/bootenv.rc ファイルを編集して、ttyb の転送速度が 115200 に指定されるようにします。

```
setprop ttyb-mode 115200,8,n,1,-
setprop console 'ttyb'
```

4. /boot/grub/menu.lst ファイルで、次のように splashimage 行と kernel 行を編集します。

```
# splashimage /boot/grub/splash.xpm.gz
kernel /platform/i86pc/multiboot -B console=ttyb
```

5. /var/svc/manifest/system/console-login.xml を次のように編集して、ログインサービスが 115200 でリスンするように変更します。

- a. 次のように propval 行で console を 115200 に変更します。

```
<propval name='label' type='astring' value='115200'
```

- b. このファイルに次の各行を追加します。

```
name="asy" parent="isa" reg=1,0x2f8,8 interrupts=3;
bash-3.00# more /kernel/drv/asy.conf
#
# Copyright (c) 1999 by Sun Microsystems, Inc.
# All rights reserved.
#
# pragma ident "@(#)asy.conf 1.12 99/03/18 SMI"
interrupt-priorities=12;
name="asy" parent="isa" reg=1,0x2f8,8 interrupts=3;
```

6. 次のコマンドを入力して、オペレーティングシステムをリブートします。

```
# reboot -- -r
```


Linux の場合の手順

次の手順は、特に明記されていない限り、サポートされているすべての Red Hat および SUSE オペレーティングシステムに適用されます。

1. **root** (スーパーユーザー) としてシステムにログインします。
2. テキストエディタで `/etc/inittab` ファイルを開きます。
3. `/etc/inittab` ファイルの次のセクションを変更します。
 - a. `inittab` の `getty` セクションを検索して、次のように `init` のレベルが 3 の `getty` を編集します。

```
3:2345:respawn:/sbin/agetty -L 115200 ttyS1 vt100
```

- b. このファイルで次の行を検索します。

```
id:5:initdefault
```

- c. 次の例のようにデフォルトの `init` レベルを 5 から 3 に変更します。

```
id:3:initdefault
```

4. リモートコンソールを使用して **root** として OS にログインする場合は、`/etc/securetty` ファイルを編集して次の行を追加します。

```
ttyS1
```

また、**root** 以外のアカウントを作成して、この変更を行わずにログインすることもできます。

5. Red Hat ですべてのスタートアップメッセージを表示するには、次のように `/etc/grub.conf` ファイルを編集します。
 - a. テキストエディタで `/etc/grub.conf` ファイルを開きます。
 - b. `kernel` 行に次のテキストを追加します。

```
'console=tty1 console=ttyS1,115200'
```

ストリーミングビデオと KVMS Over IP

Embedded LOM の SP の IP 機能を基礎とするキーボード、ビデオ、マウス、およびストレージ (KVMS) は、システムを管理するために作られたものです。大きなビデオ帯域幅を必要とするアプリケーション (ビデオを見るなど) では、KVMS over IP では正常に動作しません。

SP の CLI コマンドによるシステムの時刻

Embedded LOM の SP に入っている CLI コマンドを使用しても、システムの時刻は表示されません。システムの時刻を表示するには、Embedded LOM の WebGUI を使用する必要があります。

この問題は現在調査中です。

システム管理の WebGUI またはリモートコンソールの問題

次の問題は、Embedded LOM のリモートコンソール WebGUI に関連しています。Embedded LOM の詳細については、オンラインの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 9 ページの「RKVM のファームウェアアップデート時に SP が切断することがある」
- 9 ページの「リモートコンソールを起動するにはポップアップブロックを無効化する必要がある」
- 9 ページの「リモートコンソールを起動すると画面が白くなる」
- 10 ページの「Solaris と Linux オペレーティングシステムで、WebGUI のリモートコンソールが閉じることがある」
- 10 ページの「Solaris 上で Mozilla または Firefox の実行時にマウスが同期しない」
- 10 ページの「WebGUI にログインすると最前面のウィンドウに「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されない」
- 11 ページの「仮想 CD-ROM を使用した Solaris のリモートインストール中に、SP の接続性が失われることがある」
- 11 ページの「Solaris でのリモートコンソールマウスのパフォーマンス」

RKVM のファームウェアアップデート時に SP が切断することがある

WebGUI の「Control (制御)」メニューから Embedded LOM ファームウェアアップデートユーティリティを使用した場合、アップデートルーチンの途中で SP が切断してリセットされることがあります。SP が切断した場合、エラーメッセージが表示されるか、WebGUI が応答しなくなります。

そうなった場合には、ブラウザを閉じて再接続します。ブラウザや ssh がすぐに接続しないために、リセット手順に 2、3 分かかる場合があります。

リモートコンソールを起動するにはポップアップブロックを無効化する必要がある

Embedded LOM の WebGUI でリモートコンソールを実行しているブラウザでポップアップブロックを有効にしていると、Firefox でリモートコンソールの起動がブロックされます。リモートコンソールが表示されない場合は、内蔵のポップアップブロックでブロックされているかどうかを確認してください。

リモートコンソールを起動すると画面が白くなる

場合によって、Solaris 10 または Windows システムで Mozilla や Firefox ブラウザを使用していると、リモートコンソールの起動後にウィンドウが真っ白になることがあります。

Solaris 10 での対処方法 : Solaris オペレーティングシステムをリブートします。

Windows での対処方法 : ActiveX プラグインをインストールします。

ActiveX プラグインをインストールするには、次の手順に従います。

1. 最新の ActiveX プラグイン (mozactivex-ff-15.xpi) を、次の URL から取得します。

`http://iol.ie/~locka/mozilla`

2. Firefox 1.5 ブラウザを開き、mozactivex-ff-15.xpi ファイルを保存場所から開いたブラウザにドラッグします。

OCX が自動的にインストールされます。

3. `C:\installation_path\defaults\perf\activex.js` のファイルを開きます。

デフォルトのパスは、`c:\program files\Mozilla FireFox\defaults\perf\activex` です。

4. `pref("security.classID.allowByDefault", false)` を、`pref("security.classID.allowByDefault", true)` に変更します。
5. テキストファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
6. ブラウザを再起動します。
7. 「ツール」 → 「オプション」 を選択し、「コンテンツ」 をクリックします。
8. 「コンテンツ」 ウィンドウで、「Java を有効にする」と「JavaScript を有効にする」がオンになっていることを確認します。

Solaris と Linux オペレーティングシステムで、WebGUI のリモートコンソールが閉じることがある

場合によって、WebGUI が突然閉じることがあります。

対処方法: ブラウザを再起動し、WebGUI にログインし直します。

Solaris 上で Mozilla または Firefox の実行時にマウスが同期しない

ローカルマウスとリモートマウスが同期しないので、リモートコンソールの使用時に2つのマウスデバイスが表示されます。リモートコンソールマウスはアクティブで、使用可能です。

この問題は現在調査中です。

WebGUI にログインすると最前面のウィンドウに「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されない

WebGUI にログインすると、「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが数秒間だけ最前面に表示され、その後 WebGUI ウィンドウの後ろに移動します。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスで「Run (実行)」をクリックしないと、他のダイアログボックスを閉じるまで、WebGUI がマウスをクリックしても反応しなくなります。

対処方法: WebGUI ウィンドウを最小化し、ダイアログボックスで「Run (実行)」をクリックします。

この問題は現在調査中です。

仮想 CD-ROM を使用した Solaris のリモートインストール中に、SP の接続性が失われることがある

この問題が発生するのは、ごく一部のリモートインストールの場合のみです。接続性が失われる場合は、新しくインストールを行う必要があります。

この問題は現在調査中です。

Solaris でのリモートコンソールマウスのパフォーマンス

Solaris 10 オペレーティングシステム上でリモートコンソールを実行していると、マウスのパフォーマンスが低下することがあります。

この問題に対処するには、次の手順に従います。

1. Embedded LOM の WebGUI にログインして、リモートコンソールを起動します。
2. リモートコンソールのウィンドウを使用して、Sun Fire X2100 M2 システム上の Solaris 端末ウィンドウで次のコマンドを実行します。

```
type `xset m 1 1`
```

これでマウスのパフォーマンスの問題が解決するはずですが。

システム管理のブラウザに関する問題

次の問題は、Embedded LOM の WebGUI を実行しているブラウザに関連しています。発生する問題を最小限に抑えるため、必ずサポートされている最低限のブラウザを使用してください。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- [12 ページの「サポートされている最低限のブラウザ」](#)
- [12 ページの「リモートコンソールの使用に関して考えられるブラウザの問題」](#)
- [8 ページの「ストリーミングビデオと KVMs Over IP」](#)
- [8 ページの「SP の CLI コマンドによるシステムの時刻」](#)

サポートされている最低限のブラウザ

次の表で、サポートされているオペレーティングシステム上の Sun Fire X2100 M2 サーバーで Embedded LOM の WebGUI を実行する場合にサポートされている最低バージョンを示します。

表 1 ブラウザのバージョン番号

	Solaris X86	RHEL 32-bit	RHEL 64-bit	SLES 32-bit	SLES 64-bit	Windows
Mozilla	1.7	1.7.12	1.7.13	1.7.8	1.7.13	N/A
Firefox	1.5.0.4	1.0.7	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4	1.5.0.4
Internet Explorer	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	6

リモートコンソールの使用に関して考えられるブラウザの問題

Embedded LOM SP のベータ版では、Mozilla および Firefox を使用した GUI の操作には既知のバグがあります。この問題は現在調査中です。

リモートコンソール機能は Internet Explorer (IE) の方が安定しているので、Windows では IE を使用することをお勧めします。

リモートコンソールに Mozilla や Firefox を使用した場合に考えられる問題は、次のとおりです。

- キーボードとマウスの反応速度が遅いか、まったく反応しない場合があります。
- 仮想 CD-ROM のマウントに使用するダイアログボックスが表示されない場合があります。
- Solaris 10 6/06 で RKVM を使用している場合、特殊文字 (PRT-SCRN、ESC、RETURN、TAB など) が登録されない場合があります。

対処方法: NUM LOCK キーがオフになっていることを確認します。

この問題は現在調査中です。

- 使用しているインターネットブラウザによっては、SP IP アドレスごとにポップアップを許可する必要があります。

対処方法: Ctrl キーを押しながら「Launch (起動)」ボタンを押すと、ポップアップブロック設定を変更する必要はなくなります。

各ブラウザでの Java Runtime Environment の設定

Embedded LOM の WebGUI を実行するブラウザでは、Java Runtime Environment (JRE) 5 Update 7 がサポートされている最低バージョンです。Mozilla および Firefox ブラウザ用の JRE 5 Update 7 以降をダウンロードするには、次の手順に従います。

1. 次の URL にアクセスします。

<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp>

2. 最新バージョンの Java Runtime Environment (JRE) 5.0 の「Download」のリンクをクリックして、自己解凍型バイナリをダウンロードします。
3. お使いのオペレーティングシステムで JRE をインストールする手順については、次の URL をご覧ください。

<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/jre/install/html>

注 - 手順に従ってインストールしたら、リモートコンソールが正常に動作するように、プラグインを正しくリンクしてください。

診断の問題

次の問題は、Pc-Check 診断ソフトウェアのバージョン 6.05 に適用されます。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- 13 ページの「Pc-Check が RAID デバイスを識別できない」
- 14 ページの「キーボードの LED のテスト中に Pc-Check がハングする」

Pc-Check が RAID デバイスを識別できない

BIOS で RAID 1 を作成すると、Pc-Check 診断ソフトウェアがそのデバイスを RAID デバイスとして識別できなくなります。

キーボードの LED のテスト中に Pc-Check が ハングする

キーボードの LED のテストを行うためのテキストは、診断スクリプトに含まれていません。このテストは手動でのみ実行できます。この問題は現在調査中です。

対処方法: テストの実行をやめます。

Solaris の問題

次の問題は、Solaris 10 オペレーティングシステムが動作している Sun Fire X2100 M2 サーバーに適用されます。このセクションでは、次の問題について説明します。

- 14 ページの「シリアルコンソール経由でプリインストールされた Solaris 10 を設定するには、ConsoleMux 出力を変更する必要がある」
- 15 ページの「Solaris Xserver と NIC のインタフェース」
- 15 ページの「Solaris のインストール後に一部の KVM スイッチが同期しなくなる」

シリアルコンソール経由でプリインストールされた Solaris 10 を設定するには、ConsoleMux 出力を変更する必要がある

プリインストールされた Solaris イメージの設定を完了するには、システムが起動して OS のロードが開始した後に、コンソール出力を停止して、ConsoleMux 値を設定します。

シリアルコンソールインストール用に ConsoleMux 出力を設定するには、次の手順に従います。

1. ssh 接続を確立して SP にログインした後、Embedded LOM SP を介してシリアルコンソールから出力を表示するようにシステムを設定します。
2. SP 端末から次のコマンドを入力して、システム出力をシリアルコンソールに送信します。

```
start /SP/AgentInfo/console
```

これにより、シリアルコンソールでシステムブートプロセスを表示できるようになります。OS がロードされると、シリアルポートへの出力は失われます。手順を続けてこの問題を修正します。

3. Esc-Shift-9 キーシーケンスを使用して、コンソール画面を切り替えます。
4. SP 端末から次のコマンドを入力して、シリアルコンソールへの出力を停止します。

```
stop /SP/AgentInfo/console
```

5. SP 端末からコンソール出力を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
set /SP/AgentInfo ConsoleMux=system
```

これでインストール画面は SP 端末に出力されるので、Solaris の設定を継続できます。

Solaris Xserver と NIC のインタフェース

Solaris Xserver を起動するには、設定したすべてのネットワークインタフェースカード (NIC) をネットワークに接続します。NIC が設定されていない場合、接続する必要はありません。

Solaris のインストール後に一部の KVM スイッチが同期しなくなる

KVM スイッチ と同じマシンに Solaris 10 6/06 をインストールする際、xserver を起動して OS にログインするとモニターのライトが同期しなくなることがあります。

考えられる対処方法

- テキストモードで Solaris をインストールし、次の手順に従います。
 - a. ツールとドライバの CD から `install.sh` スクリプトを実行します。
 - b. サーバーを再起動します。

`install.sh` を実行すると最新の AST2000 VGA ドライバがインストールされるため、問題が解決されます。

Solaris で `install.sh` スクリプトを実行するための詳細な手順は、『Sun Fire X2100 M2 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

- KVMS over IP は、Embedded Lights Out Manager (LOM) の GUI とともに使用します。

KVMS Over IP の詳細な手順は、『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

- GUI モードで Solaris をインストールし、次の手順に従います。
 - a. フェールセーフブートを実行するか、起動前に `xserver` を無効にします。
 - b. ツールとドライバの CD から `install.sh` スクリプトを実行します。

Solaris で `install.sh` スクリプトを実行するための詳細な手順は、『Sun Fire X2100 M2 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

Linux の問題

次の問題は、サポートされている Red Hat Enterprise Linux (RHEL) または SUSE Linux Enterprise Server (SLES) オペレーティングシステムが動作している Sun Fire X2100 M2 サーバーに適用されます。

このセクションでは、次の問題について説明します。

- [16 ページの「キーストロークの自動反復」](#)
- [17 ページの「RHEL 32-bit OS での AMD PowerNow! 機能の追加」](#)
- [17 ページの「RHEL での NVIDIA USB ドライバの問題」](#)
- [18 ページの「RHEL 3 および 4 での NIC の設定」](#)
- [18 ページの「SLES 9 での NIC の設定」](#)

キーストロークの自動反復

Sun Fire X2100 M2 サーバー上で Linux オペレーティングシステムが動作しているときに文字を入力すると、キーストロークが自動反復します。

対処方法

1. デスクトップメニューから「Preferences (設定)」→「Keyboard (キーボード)」の順に選択します。
2. 「Keyboard repeats when key is held down (キーを押したら反復入力する)」のチェックを解除します。

RHEL 32-bit OS での AMD PowerNow! 機能の追加

RHEL 4 および 3 32-bit OS で PowerNow! 機能を有効にするには、次の手順に従います。

1. サーバーを起動して端末ウィンドウを開きます。
2. 作業ディレクトリに移動します。次のように入力します。

```
cd /lib
```

3. `powernow_k8.ko` ファイルのパスを検索します。次のように入力します。

```
find -name powernow_k8.ko
```

4. `find -name powernow_k8.ko` ファイルを含むディレクトリに移動します。
5. `find -name powernow_k8.ko` ファイルモジュールをインストールします。次のように入力します。

```
insmod powernow_k8
```

6. `cpu speed` サービスを起動します。次のように入力します。

```
service cpuspeed start
```

7. CPU 速度を `scaling_cur_freq` ファイルに読み込みます。次のように入力します。

```
cat /sys/devices/system/cpu/cpu0/cpufreq/scaling_cur_freq
```

RHEL での NVIDIA USB ドライバの問題

RHEL インストール中に USB デバイスを Sun Fire X2100 M2 に挿入すると、設置プロセスでシステムのパニックやエラーが発生する場合があります。

これは NVIDIA USB ドライバの問題で、現在調査中です。

RHEL 3 および 4 での NIC の設定

RHEL 3 および 4 用のツールとドライバの CD からインストールスクリプトを実行した後、次の手順に従って、インストールされている各 NIC の設定を編集します。

NIC の設定を編集するには、次の手順に従います。

1. スタートメニューから「System Settings (システム設定)」を開きます。
2. 「Network (ネットワーク)」を選択します。
4 つのネットワークカードの一覧が表示されます。各カードのステータスはアクティブまたはインアクティブです。
3. いずれかのインアクティブなカードをハイライトして、「Edit (編集)」を選択します。
4. 「Activate Device When Computer Starts (コンピュータの起動時にデバイスを起動)」チェックボックスをオンにします。
5. このウィンドウでは DHCP または静的 IP アドレスも設定します。
6. 「Submit/Save (送信/保存)」をクリックします。
7. 残りのすべてのインアクティブなカードに対して手順 3 ~ 6 を繰り返します。
8. メインメニューの「Save (保存)」をクリックします。
カードはアクティブになります。
9. オペレーティングシステムからログアウトし、再びログインして設定をテストします。

SLES 9 での NIC の設定

SLES 9 用のツールとドライバの CD からインストールスクリプトを実行した後、次の手順に従って NIC の設定を編集します。

NIC の設定を編集するには、次の手順に従います。

1. 端末ウィンドウから **yast2** と入力します。
2. 左側のウィンドウで、「Network Devices (ネットワークデバイス)」を選択します。
3. 右側のウィンドウで、「Network Card (ネットワークカード)」を選択します。
4. 「Network Cards To Configure (設定するネットワークカード)」ウィンドウで、設定されていないいずれかのカードを選択します。
5. 「Configure (設定)」をクリックします。

6. セットアップオプションから DHCP または静的 IP アドレスの該当する方法を選択します。
7. 「Add (追加)」をクリックして、「Finish (終了)」をクリックします。
このカードはアクティブになります。
8. 残りのすべてのカードに対して手順 1 ～ 7 を繰り返します。

